

さくら第544号

令和 7年4月

からくお

発行所 さくらそろばん
 発行者 平瀬重雄
 春江町境 17-7・Tel51-1337
 hirase@mx2.fctv.ne.jp

他人の物指し
自分のものさし
それぞれ寸法が
ちがうんだな

『あれもこれも個性と言う？』

学校支援そろばんボランティア授業は今年度で19年を終えました。授業後に校長先生との懇談のなかで今の時代ならではの児童・保護者の方々との関わり合いの大変さを伺いました。

校長先生いわく。年々、教師と児童との距離が遠くなっていくように感じるがよくあります。その一例として、校長先生が小学5年の時に、泳ぎが苦手だったので夏のプール授業では友だちなどの間に隠れるようにして、何とかごまかしていたがある日の授業のなかで担任にばれてしまった。それからの1週間あまりを担任に個別練習していただき、そのおかげで泳げるようになり、とても感謝していますとのことでした。

また、授業で分からないところがあれば放課後に指導してもらった事や、宿題をしていかなかった時に担任から、忘れて来たのならすぐ取りに帰れと言われ、仕方なく帰ったことがあったなど当時を思い起こしながら話されます。

そこで私が、今の学校ではそのようなことはできませんね。個人情報という問題が常に、どこにいてもついてまわるから、気楽に対応できませんね。男性教諭が、女子児童の肩に手をかけながら話をすれば問題になるのでしょうか？

校長先生いわく。とてもとても、そんな事したら大変ですよ。大問題ですよと両手で×のポーズです。

祝日に国旗を掲揚していなかったのは何事か、と近隣の人から学校に電話が入ることもあります。しかし、国旗だけのために職員を出勤

させることもできません。そしまた、働き方改革という事での問題点もあります。先生方の帰宅時間をいかにして遅くならないようにするかも大変ですとあれこれ話されます。

更に、幼稚園では自由きままに過ごしていた子が入学式の時、大勢が見守る中で、親と離れるのが嫌と大声で泣き叫びその対処に苦慮したことがありましたと話されます。

今の時代、小さい子を家まで一人で帰してもし事故にでも遇えば大問題ですし、そのような対処は考えられません。全てにおいて時代が変化したことを強く意識して行動せねばならないと申されます。

卒業式の予行も昔と比べ減り、今年は3回のみ。誰のための卒業式かを考えれば、大事な授業時間を減らすことはできないと力説。

小学生がスマートフォンを持ちSNSでの情報が四六時中飛び交う時代では、児童や保護者との対応も心せねばなりません。

勉強や運動でのスキキライ、家庭や学校での生活習慣、友人関係など多様な行動が「個性」として扱われ、違いがあるのは個性という範疇に入り、他人が干渉すべきではないとして扱われる世の中なのだろうと言われます。

一般に個性とは、良さ、その人らしさ、持ち味、発想などと言われますが、それは学習に対し一人ひとりが主体的に学ぶことによって初めて生まれるものです。

生まれながらに備わっている先天的なものと成長するにつれて身につくもので、特性ともいわれます。個性とは、個人がもつ独自の特性や特徴を目指すのに対し、わがままとは自分の都合を中心にふるまうことだと思います。

学校でも、好きな科目はするが興味がなければ受け付けない。やりたいことだけで成長し、その後の人生が拓ける人もいるかも知れないが、それもこれも個性として扱うのには疑問が残ります。

一人ひとりの個性は尊重せねばなりません
が、協調性がなく自分勝手なふるまいで周囲
に迷惑をかけないことが肝要です。

はるかぜ
春風や

いろいろの香かを そそのかし

季語きご 春風はるかぜ

かがちよじよ
加賀の千代女

春風が色々な花や食べ物はな　　た　　ものの香かをそそのかすように運はこんでくる。